

第5回 総合計画策定に係る柏崎市総合計画審議会 議事概要

1 日 時 令和7（2025）年7月31日（木） 午後3時00分から午後5時10分まで

2 場 所 柏崎市文化会館アルフォーレ1階 大・小・中会議室

3 出席者

- (1) 委 員 樋口秀会長、柿崎啓子副会長、相田浩委員、飯田博委員、岡田和久委員、片岡哲雄委員、
権田恭子委員、嶋岡和美委員、霜田直也委員、田邊幸子委員、遠山みちる委員、
中野博幸委員、長谷川弘美委員、丸田秋男委員
- (2) 庁 内 総合企画部長、財務部長、市民生活部長、危機管理監、福祉保健部長、子ども未来部長、
産業振興部長、都市整備部長、上下水道局長、教育部長、議会事務局長、消防長、財政管理
課長、同係長2名、同係員2名
- (3) 事務局 企画政策課長、同課長代理、同企画係員

4 会議資料

【事前配布】

- ・ 次第
- ・ 資料1_将来都市像・重点戦略について
- ・ 資料2_各課対応表及び修正後の主要施策シート
- ・ 資料3_施策の体系図（案）
- ・ 前回資料_分野別施策の基本方針に係る主要施策シート（案）
- ・ 資料4_柏崎市第六次総合計画の素案
- ・ 参考資料1 財政計画（歳入）
- ・ 参考資料2-1 財政計画（歳出：性質別）
- ・ 参考資料2-2 財政計画（歳出：目的別）
- ・ 参考資料3 財政指標等の推移

【当日配布】

事前配布資料のほか、

- ・ 席次表
- ・ 国勢調査によるR2世帯人員及びR7柏崎市の高齢化の現状

5 会議概要

(1) 開会

(2) 会長挨拶

連日酷暑が続いているが、柏崎の稲は順調に育っており、水源のダムにはまだまだたくさん水があるようだ。昨日のロシアの地震では、津波の影響で遠く離れた日本でも様々な制約があったが、地震にも津波にも強いまちが柏崎であると改めて感じている。先日のぎおん柏崎まつりを始め、このまちのいいところはたくさんあるが、人口減少が厳しい状況である。

本日の議題には、次期総合計画策定に向け、決めなければならない事項がたくさんあるが、未来の柏崎につなげるため、忌憚のないご意見をいただきながら、審議会としての意見を事務局にお返ししたい。

(3) 議事

委員の発言は次のとおり

発 言 者	発 言 概 要
【将来都市像・重点戦略の修正案及び前回の審議会を踏まえた各課対応について 資料1、2】 (資料1及び資料2により、事務局が説明)	
将来都市像について	
委 員	： 将来都市像の「未来都市」が、車が空を飛んでいる世界をイメージするが、ズレが生じないか。
事 務 局	： 未来に向かって希望や夢を描いていけるような願望も含めて、このような表記としている。
委 員	： 将来都市像の「energy」に、ルビを付けて製本されるのか。
事 務 局	： 現時点では、ルビを付けることは考えていない。
委 員	： ルビや説明がないと、「エネルギー」と読むなど、市と市民との間に勘違いが生まれるのではないか。「energy」をアルファベットでエナジーとするのであれば、将来都市像に取り入れた理由をしっかりと説明することが重要である。巻頭で市長が伝えることも良いと思う。
委 員	： 将来都市像の「笑顔、energyあふれる未来都市・かしわざき」の語句の順序に少し違和感がある。また「energy」をそのまま表記する場合、特にお年寄りには読みにくいため、カタカナで記載することなどを検討した方が良い。「未来都市」というワードを将来都市像として掲げることについて理解はできるが、第六次総合計画期間の8年間、本当にこれを掲げてやっていくとすれば、もう少し丁寧な説明が必要である。
委 員	： 未来都市が漠然としすぎている。
委 員	： 個人的には、この将来都市像は良いと思う。ただ、「energy」にルビを振った方が良い。30年くらい前の10年後は何となく想像できたが、現代は5年後でさえどうなっているのか分からない時代である。「未来都市」には夢があって良い。
委 員	： 「energy」が「エナジー」、「エネルギー」のどちらなのか、カタカナではなくアルファベットなのかは、これまで重ねて議論してきたことであるが、アルファベットの「energy」を最後に提示してきたことは、市の強い想いだと思う。それをできる限り汲み取りたいが、プロセスを知っている私たちは理解できても、市民はその経過を知らないため、やはりルビやカタカナ表記にするなど、誰もが読みやすい工夫が必要である。また、「未来」という言葉を入れたことで、重点戦略とのつながりができて良いが、「未来都市」というイメージで考えるのであれば、「未来に向かうまち かしわざき」など、「都市」というワードにこだわらなくてもいいのではないかと感じた。
委 員	： 「エネルギー」と「エナジー」という語句を調べてみると、基本的には同じような意味合いで使われているが、気力・活力を表す上では、「エナジー」がより多く使われているようだ。また、最近の傾向としても、「エナジー」という言葉が使われることが多い。気力・活力ある柏崎という意味を受け取れるようにするには「エナジー」で良いが、年配の人にも読みやすくすることや、「エナジー」が持つ意味合いについて、丁寧な説明が必要である。

委 員	:	「energy」については、特に意見はない。どういう意味合いが市長の説明がま えがきなどにあれば良い。「未来都市」についても、こういう絵を描いたところに みんなで向かっていくということや、市民が暮らしやすく活力ある柏崎を、市民 が主体的に想像していくという意味合いが込められていると理解している。
会 長	:	今は、不確実性の時代とも言われている。「未来都市」に決められた絵はなく、 目指す姿にみんなが向かって行くことを盛り込むことで良いのではないかと。意見 をまとめると、基本的には「energy」に「エナジー」とルビを振り、市長が説明 を加えるという意見が多いように感じるがいかがか。
委 員	:	「エナジー」でも「エネルギー」でも、市民が自分なりに解釈し、自由な発想 で読んでも良いのではないかと思う。
事 務 局	:	それぞれ重要な意見をいただいた。方向性というより、表現や説明の仕方だと 受け止めた。市民に分かりやすくというのは重要な視点であるため、どのような 表現がいいのか検討したい。

重点戦略について

委 員	:	重点戦略の両方に「未来」というキーワードを入れてまとめたことは良いと思 う。また、重点戦略1の戦略の方向性に、具体例として「安心して出産できる環 境」と入れたのは、分かりやすくて良いと感じた。
会 長	:	重点戦略1の「未来につなぐ」の「未来」は、少し遠い未来であるが、「未来」 に向かってこの8年間着実に歩みを進めるということである。それを目指す姿に 盛り込むことを、審議会の意見として事務局に返して良いか。
全 委 員	:	異議なし。

各課対応表及び修正後の主要施策シートについて

委 員	:	魅力ある商業の振興について、個々の事業者への支援や空き店舗活用、イベン ト開催の支援など記載されているものの、中心市街地の商店街の活性化や再整備 など、インパクトがある事業が計画されていないのが残念である。前回の審議会 で、主要施策シート1-6についても伝えたが、中心商店街が魅力的な商店街どう かより、住環境の質の低下を認識してもらいたいということが趣旨であった。 第六次総合計画素案の11ページにある「柏崎市の課題」にも記載されていると おり、「市民の生活環境を可能な限り維持しながら、安心・安全に暮らせる豊かなま ちづくり」に関連することとして、本町通り商店街周辺の住環境の問題を指摘さ せていただいた。
会 長	:	近年、中心商店街の問題から中心市街地のエリア自体の問題に発展してきてい る。2-4の主要施策シートとは少し異なると思うが、中心市街地エリアの再整備 は不可欠かもしれない。
総合企画部長	:	重点戦略1の戦略の方向性にも、「市街地の買い物環境の維持・向上によるにぎ わいの創出」として記載しているように、重要なご意見として受け止めている。 主要施策シートにも、2-4の商業分野と1-6のまちづくり分野を分けて記載して いるところである。
産業振興部長	:	2-4の主要施策シートについては、言葉の修正はしていないが、同じ認識を持っ て取り組んでいかなければならないと思っている。事業を進める上で、しっかりと 捉えて進めていく。ご指摘のとおり、中心市街地の買い物環境も数年前から厳 しくなっているが、一生懸命取り組んでいるところである。主要施策の方向

性の【商業界の活性化】においても「市民の地元購買意欲回復を図るため、魅力ある商業施設の立地に向けた環境整備について検討します」としているが、これは大型商業施設だけを指しているのではなく、広い意味で商業施設が空き店舗に入ってくることへ環境整備ということである。今の中心市街地は、理想の形とは言えない。市民の皆様にも買い物をしていただくことを含め、様々なご協力をいただきながら進めていきたい。

都市整備部長： 主要施策シート1-6の主要施策の方向性に記載のとおり、「柏崎市立地適正化計画」に基づいて、居住誘導区域や都市機能誘導区域を設定し、都市機能を緩やかに中心市街地に誘導したいという計画を持っている。現在、地価が下落しているものの、中心市街地の地価は周辺と比較して高い。柏崎市は、一戸建て住宅の需要が高く、新築住宅は特に郊外に多くなっている。立地適正化計画に基づいて誘導したいが、なかなかできていないのが現状である。第六次総合計画では、中心市街地の住環境を整備する方向性も含めて進めていきたい。

【分野別施策の基本方針に係る主要施策シート（案）について

資料3、前回資料

（資料3及び前回の主要施策シートにより、事務局が説明）

委員： 分野3や5など難しい分野もあるが、基本的に主要施策の並び順については、なるべく重点戦略のマークが付いたものを上にした方が良いのではないかと。

また、分野1は以前も提案したとおり、分野の名称からも1-6の「魅力ある都市環境と住環境の整備」が一番先頭にきた方が良い。続いて、1-4、1-7、1-2、1-3、1-5、1-1原子力防災と並び、1-8、1-9は変更なしとすると、どういうまちにしていきたいか分かりやすいと思う。

委員： 分野1については、安心して暮らせることが前提にあった方が良いのではないかとという考えから、最初に1-3の「災害に強いまちづくりの推進」として、その後1-2、1-1とした方が良いと思う。また、1-6と1-7の順も、社会基盤があってこそその住環境の整備だと思うため、逆が良いのではないかと。分野4も同様の考え方で言うと、4-2の「教育環境の充実」があって、4-1なのではないかと感じる。基盤がある上で、環境を整えていく考え方で整理してはどうか。

委員： 分野1について、トップに来るものは、1-7の充実した社会基盤の整備だと思う。その下に1-6、1-8、1-9が来て、1-1から1-5までが続くのではないかと。1-6の魅力ある都市環境と住環境の整備のシートには、人口減少下にある自治体が苦勞している部分が記載されており、これを逃げずに書いたことは、市としての覚悟の現れだと思うが、ここで言う中心市街地とはどこを指すのか。

都市整備部長： 柏崎市立地適正化計画に基づいて言えば、大まかには、国道8号線より海側で、西側は鵜川から東側は鯖石川までを指している。

事務局： 資料4の素案の37ページから39ページに、土地利用構想について記載している。37ページに中心市街地の定義を、39ページに土地利用のイメージ図を記載し、土地利用構想の中での定義づけをしている。

委員： 分野4を例にすると、学校教育を推進するために教育環境の充実が必要であり、また、学校教育だけでなく生涯学習も充実させ、更にはスポーツの推進と文化振興・文化財も継承していくというような、市の考え方の流れがあるのだと思う。分野1についても、なぜこの順なのか説明があると分かりやすいのではないかと。

事務局： 基本的には第五次総合計画を踏襲しているが、子育て・健康・福祉の分野においては、分科会での意見も踏まえて並び替えている。分野1の並び順について、

様々なご意見を頂戴したが、各分野の担当部長と相談しながら決定したい。	
会 長	： 基本的には現行の計画ということだが、「未来都市」を掲げて進めていく計画なのであれば、前例に捉われず、思い切って変えても良いと思う。将来都市像のワードの並びから言えば「笑顔」に当たる分野が最初にきて、それから「energy」に続くと整合性がとれると思う。分野1、分野3が先にし、その次に産業・エネルギー分野があっても良いと感じた。
委 員	： 分野の並びについて、第六次総合計画は市民が中心になっていくわけなので、市民の暮らしや安全が最初にきて、次に重要なこととして、人口減少下でもあるため、子育てしやすい環境を整えることや福祉関係、そして3番目の分野として産業・エネルギー分野が来る方が良いと思う。
委 員	： 子育てが上位でも良いと思う。また、赤丸が各分野の中での重点で、上にあるべきものだとなると、そうっていないのは分野1と分野5である。将来都市像にある「未来都市」を意識して並べると、これまでの意見のような並びになるが、分野1の1-1に原子力安全があり、分野5の最初には「若者や移住者に選ばれるまちづくり」ではなく「人権」や「ジェンダー」に関する主要施策がきている。1-1や5-1は、この8年の計画ではなく、市として1丁目1番地くらいの概念で掲げなければならない部分だとすれば、その後のシートで調整しなければならないと感じた。分野4は、文部科学省の教育関連の法規の並びから考えても、この順で良いと思うが、分野1及び分野5については、確認が必要だと思う。
総合企画部長	： 市としての考えもあるが、審議会から貴重なご意見をいただいた。分科会での意見も含めて調整させていただきたい。
委 員	： 分科会で審議していただいたプロセスがある。また、行政計画として市で整えていただいたものである。今回の審議会の意見を受け止めていただき、後は会長と事務局に一任させていただくのが良いのではないか。
委 員	： そもそも、主要施策シートの数字の順番が重要度を表しているわけではないと思う。どれもしっかりと取り組む中で、分かりやすいようにカテゴリー化しているだけである。そのことが分かるように説明されていれば良いのではないか。 また、分野4の教育関連の順で言えば、教育に関連する計画は、大抵この順なので問題ない考える。
委 員	： 重点戦略1のめざす姿に、子育て環境や教育環境の充実を掲げているが、分野3の3-2が重点戦略1に入っていない。該当していない理由があるか。
事 務 局	： 施策の体系図の3-2の行を横に見ていただくと、主要施策の方向性として、ヤングケアラーやひとり親家庭への支援などが記載されている。これらはどちらかというと子育ての具体的な内容で特定の分野を指しているため、広い意味で子育て支援全体を指す3-1を、重点戦略1の関連する具体的施策として挙げている。
会 長	： 是非3-2についても、特別な支援というより一般的なこととして、重点戦略1に入れることを検討してもらいたい。
委 員	： 未来につなぐ安心と暮らしやすさという観点から、3-5の高齢者福祉も重要ではないか。
委 員	： 施策を進めていく基盤にある市民力・地域力は、柏崎市の強みである。イメージ図と重点戦略の関係性を考えると、重点戦略を実現するための主要施策として、重点戦略1に5-3を入れ込むことを検討してもらいたい。
委 員	： 分野1を、「生活・安全・環境」ではなく「安全・生活・環境」にすると、主要施策の順と合致するのではないか。

委 員	:	3-5の高齢者福祉の充実の重点戦略1への追加は、めざす姿や戦略の方向性に 関連する記載がないと難しいのではないかと。整合性をとることが必要である。
委 員	:	様々な考え方があるが、分野1の1-1に関しては、私たち市民は原子力発電所の ために生きているわけでもないし、それにおびえて生活しているわけでもない。 やはり豊かな生活環境や普通の生活が大事だろうと考えると、原子力発電の順番 を落としてもらいたい。
会 長	:	魅力ある都市環境や住環境の整備は、未来に向けて非常に重要なキーワードで ある。主要施策の順が施策の重要性を表すものではないが、1-6を分野1の上位に 持っていつてもらいたいことを審議会の意見とし、分野3の3-2や3-5を重点戦略 1に追加することも含め、事務局で再度検討していただきたい。
委 員	:	5分野の下に重点戦略や主要施策があり、重点戦略1・2に分けているが、これ は重点戦略を達成させるためのものであって、1や2に分ける必要があるのか。
事 務 局	:	素案でも説明させていただくが、それぞれの重点戦略の達成度を見るための KPI設定の関係から重点戦略1や2に分けている。重点戦略に関連する施策をいく つか挙げているが、重点戦略になっていないからといって力を入れないというも のではない。総合計画に掲載する施策全てが重要だとご理解いただきたい。重点 戦略1については、どちらかというところ現在の子育て世代の重点戦略の流れを組ん でおり、若者や女性をメインのターゲットとしている。
委 員	:	これについて重点戦略1・2にあまりこだわらなくて良いのではないかと。思う。 また、将来都市像の「未来都市」が野暮ったいのであれば、「あふれる未来へ」 や「未来へ向かう都市」などの表現にしても良いかと思う。
会 長	:	将来都市像を縦書きで見ると、「笑顔」と「energy」の間の「、」が気になる。 「、」ではなく別の表現でも良いと感じた。
委 員	:	KPIと絡めた時、市民力・地域力を図る指標として、何が使えるか考えると、 市民アンケートの中からKPIに設定できるものがあるのではないかと。思うので、 そうした視点も含めて検討していただきたい。
委 員	:	重点戦略2の戦略の方向性の中に、ものづくり産業のDX・脱炭素化と記載され ているが、主要施策シート2-2の方向性には脱炭素のこしか書かれていない。 なぜDXが盛り込まれていないのか。
産業振興部長	:	記載内容を再確認し、検討させていただく。
委 員	:	分野3から5の分野別施策のシートを見ると、市で生まれてから乳児期、幼児 期、小・中学校まで手厚く見ていただいていることがよく分かるが、高校・大学・ 専門学校などの年代に対する支援が希薄だと感じる。せっかく良い施策があつて も、最上位計画に掲載されている内容の対象が小・中学生ばかりでは、施策を実 行できないのではないかと心配している。一市民が高校生のことで相談に行つて も、おそらく取り扱ってもらえないと思うが、高校生も大事な市民で、全ての子 どもを手厚く見ていることが盛り込まれると良い。具体的には、生徒数が減って きている市内高校もあり、校内で部活動を維持することも難しい。そこで、先生 が中学校の部活動の地域移行のタイミングで、高校生も地域で活動できないかと 相談に行つたところ、高校生は管轄でないことから、答えが出ずに帰ってきた。 高校のことを何とかしてほしいということではなく、今、柏崎市に住んでいる高 校生世代のことも含めて考えてもらいたい。また、高校生や大学生にもしっか りと防災教育をすることで若い力が戦力になると思う。ほぼ固まってきている計 画だが、高校生のことも少しでもどこかに入れられないか検討していただきたい。

会 長	:	市と県の役割分担があるが、大変重要な指摘である。
総合企画部長	:	ご意見を重く受け止めている。主要施策シートに盛り込んでいる部分もある。
市民生活部長	:	4-3の主要施策シートにも、「こどもや若者に向けた支援の充実」を方向性に記載しており、その若者の中に高校生も入っているものと認識している。
委 員	:	「高校生」という文言ではっきり書かないにしても「18歳未満とか」そういった表記で入っていると、この世代が含まれているということが分かりやすい。その方が職員の方も動きやすいのではないかな。
委 員	:	高校生も市民だから入れてほしいということだと、意見を反映するのは少し難しいのではないかな。具体的にどの支援なのか、例を挙げると話が前に進むと思う。
委 員	:	柏崎市では現在「柏崎市こども・若者計画」を策定中である。15歳以上39歳までを対象としている。今、問題提起したことは、市として内部で整合性をとることで問題をクリアできるのではないかな。
委 員	:	不登校や発達障害を持つお子さんは、高校に進学する際、学校から高校の紹介をしてもらえず、自分たちで高校を探して受験している。今は、昔より支援が手厚くなっていると聞いているが、やはりどこかに掲載することも大切だと思う。例えば4-2の教育環境の充実のところに盛り込むなど、中学校卒業後も市は若者を大事にしている、若者を逃さないというようなことを記載した方がいい。
委 員	:	他市でも、中学校までは支援があるが、高校進学後や高校等に通っていない子どもたちが、引きこもりや様々な問題に巻き込まれることがあり、支援に取り組んでいると聞いた。柏崎市も同様に、問題意識を持って取り組んでいると思うが、計画に記載されていないということだと思う。具体的な記述はできないにしても、教育センター等の具体的な取組について発信できると良いのではないかな。
委 員	:	「柏崎市こども・若者計画」でいう若者が、15歳以上39歳以下とすると、大学生を含む幅広い人が若者ということになるが、「柏崎市こども・若者計画」は、どの部署が担当しているか。39歳まで若者に含まれるとなると、5-4の若者や移住者に選ばれるまちづくりの「市内2大学卒業生の地元就職率」の目標指標にも関係してくると思う。どの部署においてどのような連携が取られているか。
子ども未来部長	:	「柏崎市こども・若者計画」は、引きこもりや学校に行けないお子さんなど、社会との接点が持ちづらい方々が、自分らしく生きていくための支援を、福祉分野や教育分野を始めとした庁内各部署と連携して取り組んでいくもので、今まさに計画を策定中である。策定に当たっては、産業大学及び工科大学の学生にアンケートにご協力いただき、若者の意見を反映しながら進めているところである。
委 員	:	高校生がもっと市民として活躍できるようになってほしいというのが願いである。この計画のどこかに記載することで、職員も柔軟に動きやすいようにしていただきたい。
会 長	:	高校生世代は、未来の柏崎を作る重要な世代である。もっと市民としてその世代を取り込み、それを計画の中に盛り込めると良い。

【柏崎市第六次総合計画の素案について

資料4 及び参考資料】

(資料4 及び参考資料により、事務局、財政管理課が説明)

委 員	:	42ページに「個人市民税は、賃上げに伴う給与所得の増加が期待されますが」とあるが、事業主の立場からすると、柏崎市の中小企業は本当に厳しい状況下でやっているため、簡単に賃上げや給与所得の増加と書いてほしくない。何とか手取り分は維持したいという中で、精一杯やっているため、ここは慎重な記載をお
-----	---	--

願いたい。

委 員 : 市税の8年間を見ると150億の中盤で推移するのは喜ばしいが、そうした中で、軽自動車税が減少していくと見込んだのはなぜか。また、使用済核燃料税が増えていくのは経年累進課税関係のようだが、その内容を聞きたい。

委 員 : 人件費の部分で、その年によって2億円増えたりしている。職員の増減などを見込んだものだと思うが、その考え方と、令和11年度だけ物件費が増えているのは何か要因があるか伺いたい。

委 員 : 資料2-1及び2-2の公債費で、若干数字が違っているのはなぜか。

財 務 部 長 : 軽自動車税が、令和15年に大幅に下がっていることについては、次回までに分析した結果を示したい。また、使用済核燃料税については、東京電力ホールディングスが、搬出計画を三か年出していることを考慮しているが、それ以外の期間については未定であるため、搬出しないという計算で行っている。財政管理課長が説明したとおり、毎年ローリングにより見直しをかけており、その都度確実な数字を算出していきたい。ご指摘いただいた個人市民税の賃上げの表現については、ご意見を踏まえ、慎重に記載を検討したい。

今回、8年間で財政計画を組んでいるが、堅調な市税の歳入になっている。財政計画及び予算編成に携わっている中で、やはり自治体の基礎的な体力である税収が堅調であることに勝る健全財政はないと改めて感じている。

財政管理課長 : 人件費の部分については、柏崎市の定員管理計画を令和5年3月に策定し、当時894人だった職員を令和15年度までに850人、市長部局で言えば795人まで減らすとしている。定年延長に伴い、2年ごとに退職金を支払うこととしているため、退職手当の影響である。また、令和11年度の物件費の数字については、施設の解体は物件費という性質になり、少し大きな建物の解体を予定しているため、数字が大きくなったものである。

参考資料2-1と2-2の公債費の数字の違いについては、表題にもあるとおり、2-1は「性質別」、2-2は「目的別」で整理したためである。商工費の中に、公債費に当たる経費があり、それを整理すると性質別の数字と差が出ることをご理解いただきたい。

委 員 : 賃上げについて、柏崎市は中小企業が圧倒的に多いが、大手企業も決して景気が良いわけではなく、この物価高に対して賃上げをしている状況である。地域企業の賃上げの理由としては、今離職されては困るからという理由が大半であり、業績がいいから賃上げしているのではないことを理解してもらいたい。

委 員 : 土地利用構想について、定義にゾーンや交通軸が書かれているが、具体的な地区名や施設名が記載されておらず、自分の住んでいるところがどのような計画を持つ地域に位置付けられているか分からない。第五次総合計画の土地利用構想には、8つの地区の土地利用方針があって、自分の土地がどういう位置付けか読めばなんとなく理解できたが、第六次総合計画では、西山と高柳の地域事務所周辺が主要地域拠点になっていることが分かるのみで、それ以外には固有名詞がない。自分の住んでいる地域が都市サービスゾーンなのか集落環境ゾーンなのか、特化型拠点が何のことを指しているか分かるように、説明を加えてもらいたい。

また、前期基本計画について、人口ビジョンでは人口減少と少子高齢化が進み、財政計画では厳しい財政見通しが示され、その後の重点戦略では夢と希望にあふれた言葉が目指す姿として書かれているが、そのギャップが大きすぎて戸惑う。例えば、先ほどの財政の資料を見ると、部局ごとにこの4年間でどのような事業

にいくら予算があるか分かっているはずなので、各重点戦略に対して具体的にどのような事業や計画で目指す姿に近づいていくのか、事業名や計画名を具体的に書くと市民に分かりやすいのではないかと。

また、財政計画に（仮称）柏崎セントラルガーデンという言葉が出てきたが、本編には出てきていない。道の駅風の丘米山など、全体を通して市民が気にかけられていることに対して、具体的な記述がないことは残念である。駅前通りや本町通りも固有名詞を使った説明でもう少し記載してもらいたい。そして何より、自然災害と原発事故が重なった時の、複合災害時の避難計画や対策についての記載がなく不安であるため、記述を検討してもらいたい。

会 長 : 個別計画に委ねる部分もあるため、総合計画に書けることと書けないことがあると思うが、市民目線では気になる部分かもしれない。

委 員 : KPIの扱いについての意見は、事務局に直接お伝えしてよいのか。

事 務 局 : 次回が具体的な審議の最終となるため、事前にご意見をお寄せいただきたい。

委 員 : 4-4のスポーツによるまちづくりの推進の目標指標で、全国大会以上の入賞回数の対象を高校生以上にしたのはなぜか。また、なぜ出場回数をなくしたのか。

教 育 部 長 : 細かい経緯を確認し、後ほど回答したい。

事 務 局 : これまでは、小・中学生を含めてカウントをしていたが、高校生以上を対象とした理由として、分科会で委員から小・中学生のうちから勝敗にこだわりすぎてスポーツをやらせるのはどうなのかというご意見があり、高校生以上ではどうかという意見があったためである。まずはスポーツを楽しむ、なじんでもらうことが、ジュニア世代において大事だという考えからである。

委 員 : 学校の運動会の徒競走でも順位をつけると苦手な子がかわいそうだという見方もあるが、小学生でも友達と遊ぶ時間を割いてまで、スポーツを頑張っている子もいる。頑張る子どもに対して大人が勝手に分けるのはどうかと思う。

会 長 : 分科会で、だいが議論していただいた内容なのかもしれないが、委員のご意見も分かる。コメントで、小中学生については取り組むことを応援したいというようなことを追記しても良いかもしれない。

総合企画部長 : 再度検討したい。

(4) その他

次回開催予定 令和7（2025）年8月25日（月） 柏崎市役所4階 4-3、4-4会議室

(5) 副会長挨拶

ぎおん柏崎まつりの海の大花火大会で、とあるバスガイドさんがSNSに、「観光バスを駐車場から米山インターまで専用道路のように誘導し、国道8号へもスムーズに合流できた。素晴らしいオペレーションで、ぜひバスツアーで行きたい花火大会だ」と書いていた。関係者の方々の目に見えないおもてなしが、柏崎スタイルなのではないかと思う。花火大会を何とか成功させるため、市の地形などを活かして、どのように行つか、連携や一つ一つの積み重ねが柏崎の力をつけていくことにつながっていると感じた。

今回も内容の濃い審議会であった。次回の審議会もまた活発なご意見をいただきたい。

(6) 閉会

以上